明日への道標

甲冑を身にまとった騎士
― バーバリーのハードボイルドな伝統 ―

㈱日本設備工業新聞社
代表取締役社長　高倉克也

服には身体を守るという本来の役割がある。風雨、熱射、冷気などに人間は裸で耐えることはできない。

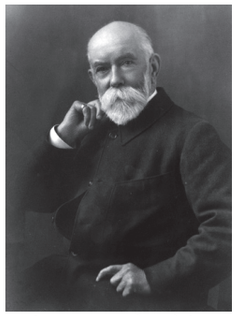
トーマス・バーバリー（1835－1926）が創始したイギリスのトップブランド・バーバリーは自然界で生き残るという人間の根源的な欲求を徹底して追求した。歴史上の著名な冒険家たちがバーバリーの衣類を身につけて前人未到の記録に挑戦した。とりわけ戦争という極限状況のなかで誕生したトレンチコートはタフで大人で毅然とした生きざまを示すハードボイルドの代名詞となった。

自然と格闘して世界に君臨した西欧近代文明の歩みをバーバリーは等身大の鏡像のようにくっきりと映し出している。

世界初の防水生地ギャバジン

バーバリーはイングランド南東部サリー州の小さな村ブロッカム・グリーンで生まれた。地元の学校を卒業して仕立て屋の見習いとなり、21歳で独立してロンドン西部ハンプシャー州のベイジングストークで洋服店を開業する。

小さな店でありながら乗馬、釣り、狩猟、スキー、ゴルフ、サイクリングなどに適したアウターウェアの品揃えが豊富で評判を呼び、スポーツ好きの男女に重宝された。交通の便がよく遠方からも客が訪れるようになり、さらに品数を増やして


トーマス・バーバリー

1870年に店舗を大幅に拡張した。

勢いのついたバーバリーは販売だけにとどまらず、より機能性の高い生地づくりに情熱を注いだ。農民や羊飼いが汚れないように羽織っていた麻の外套に着目し、夏は涼しく、冬は暖かく、軽くて洗いやすくて肌触りのよい新素材生地ギャバジンを開発する。

ギャバジンは麻よりも経済的なコットンの糸に独自の防水処理を施し、きめ細かく綾織りしたあとにふたたび防水加工することで抜群の防水性・通気性・耐久性を実現した。ギャバジンの名称の由来はスペイン語で巡礼者の上着を意味するガバルディナといわれている。あるいはシェークスピアの戯曲「テンペスト」に出てくる怪物キャリバンの上着から名づけたという説もある。

1888年、バーバリーはゴムを使わない世界初のコットン防水生地であるギャバジンの特許を取得し、目覚ましい急成長を遂げる。３年後にはロンドンのヘイマーケット30番地に新本社兼新店舗を開設した。

イギリスが南アフリカの植民地支配を目論んだボーア戦争では軍用コートとしてボタンの代わりに紐で固定するタイロッケンコートを製造する。

ギャバジンを活かした陸軍士官のコートはのちに一世を風靡するトレンチコートの原型となった。

塹壕で生まれたコート

1901年、バーバリー初のカタログ発行に際してレーベル・デザインを公募し、甲冑（かっちゅう）を身にまとった馬上の騎士を名誉・高潔・勇気のシンボルとして採用した。騎士が掲げた旗に記されているProrsumはラテン語で「前へ」を意味している。

極限に挑む冒険家たちはこぞってギャバジン製の衣服やテントを携行した。1911年、南極点に到達したノルウェーのアムンゼン隊と遭難の悲劇に見舞われたイギリスのスコット隊は共にバーバリーの防寒着を着用していた。アムンゼン大佐はバーバリーに宛てた手紙で「バーバリーのオーバーオールは南極に向かう橇（そり）の旅で大いに役立ち、素晴らしい旅の道連れとなってくれました」と書き残している。

1914年に勃発した第１次世界大戦は銃火器の発達によって塹壕戦（ざんごうせん）が主流となった。地面に銃を構えた兵士が隠れられる深い溝を掘り、鉄線などでバリケードを築いて敵の襲撃を防ぐようにした。むろん相手も塹壕を掘って守りを固めることから戦局は膠着して長期化する。湿気、ぬかるみ、悪天候ときわめて非衛生的な環境のなかで何日も過ごす兵士たちは塹壕病と呼ばれる身体の異変を訴えた。重体に陥ると患部を切断するような異常事態も少なからず起きた。

深刻化する塹壕病を食い止めるためにバーバリーは新たにトレンチコートを考案する。そもそもトレンチは塹壕のことで猛烈な湿気に対処すると共に戦闘行為を損なわないハイレベルの機能性が求められた。

全天候型のトレンチコートは大きな襟の裏側にジグザグのステッチを入れることで風雨のときにしっかりと立てられる。ボタン付きショルダーストラップは負傷した仲間を引き摺ったり、ライフルの銃床を支える役割を果たした。ウエストのベルトにあるＤ型の金属リングには水筒、弾薬、手榴弾などを吊り下げた。

緻密に考え抜かれたトレンチコートは軍部に正式採用され、戦時中50万を超える兵士が着用した。

スター映画の黄金時代に

第１次世界大戦で日英同盟を結んでいた日本では1915年、洋書を取り扱っていた日本橋の丸善がバーバリー製レインコートの輸入販売を始める。トレンチコートの成功で自信を深めたバーバリーは代理店網を構築して全世界へ進出していった。

1919年、ジョージ５世からコート・ジャケット部門の王室御用達（ロイヤルワラント）に認定される。1924年にはキャメル地に赤、白、黒で構成したバーバリーチェックをコートの裏地に使って評判となり、のちに傘、バッグ、マフラーなどのデザインとなって世界中で親しまれた。

バーバリー自身は1917年に引退し、事業は息子に引き継がれた。イングランド南西部のアボッツ・コートに10年近く隠棲し、90歳の長寿で他界する。酒も飲まず煙草も喫わない厳格なバプテストで毎朝のように祈祷会を開いていたという。

戦火のなかで生まれたトレンチコートはブランドの象徴として定着し、元首相のチャーチルやシャーロック・ホームズの原作者であるコナン・ドイルらが愛用した。レイモンド・チャンドラーのハードボイルド小説に登場する孤独な私立探偵のフィリップ・マーロウはトレンチコートを身につけて汚れた街の悪党たちと対峙した。

伝説のスター俳優による映画の黄金時代にはトレンチコートを効果的に使った名作が創られた。「ティファニーで朝食を」ではオードリー・ヘップバーンがスカーフ、サングラス、トレンチコートというキュートな装いでバーバリーの男性的なイメージを刷新する。ハリウッド女優のキャサリン・ヘップバーンは私生活でもトレンチコートを愛好して優雅に着こなした。日本では宝塚歌劇団の舞台で男役が着ることが少なくない。

第２次世界大戦を舞台にした「カサブランカ」では主人公のハンフリー・ボガードが愛するイングリッド・バーグマンを守るために犠牲を払う。中折れ帽を被ったボガードはよれよれのトレンチコートの襟を立てて雨のなかに佇んでいた。